

独立行政法人国際農林水産業研究センターの平成24事業年度評価結果の主要な反映状況

1. 役員人事への反映について

役員人事への反映	中期目標に定められた業務について、中期計画に沿った年度計画が順調に達成され、独立行政法人評価委員会による平成24年度の総合評価が「A」評価であったこと等を踏まえ、役員解任等は行わなかった。
----------	--

2. 役員報酬への反映について

役員報酬への反映	中期目標に定められた業務について、中期計画に沿った年度計画が順調に達成され、独立行政法人評価委員会による平成24年度の総合評価が「A」評価であったこと等を踏まえ、役員報酬の増減は行わなかった。
----------	--

3. 法人の運営、予算への反映について

評価項目	24事業年度評価における主な指摘事項	平成25及び26年度の運営、予算への反映状況
業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	『研究資源の効率的利用及び充実・高度化』 外部研究資金の獲得金額が減少していることから、獲得に向けた継続的な取組を期待する。	グループウェアやメールリストを活用して外部研究資金に関する情報を発信したほか、科学研究費助成事業公募要領等説明会（文科省）や競争的資金セミナー「科研費獲得の方法とコツ」（筑波農林研究交流センター）への参加を呼びかけるなど、獲得に向けた取り組みを行っている。
その他農林水産省令で定める業務運営に関する事項等	『人事に関する計画』 24年度は、任期付研究員への応募はあったものの女性研究者の採用には至っていない。今後も優秀な女性研究者の応募・採用に繋がるよう継続的な取組が期待される。	任期付研究員の公募において、募集要領に「当センターは、「男女共同参画社会基本法」の趣旨に則り、男女共同参画を推進しており、女性研究者の積極的な応募を歓迎します」と明記し、女性研究者の応募を促進した。公募にあたっては、JIRCASのホームページに掲載するほか、研究者人材データベースや「つくばサイエンスニュース」に掲載するなど、周知に努めている。
	『法令遵守など内部統制の充実・強化』 規制物質等の適切な管理について、引き続き徹底した点検の実施が期待される。	業務で使用する特定化学物質、有機溶剤、毒物及び劇物、危険物、その他一般試薬等について、受入、使用、移動、廃棄等を一元的に管理する薬品管理システムの運用を開始した。また、化学薬品等管理規程に基づき、化学薬品等の管理情報や設備・機器類の管理状況、化学薬品の保管状況等に関する点検を行っている。